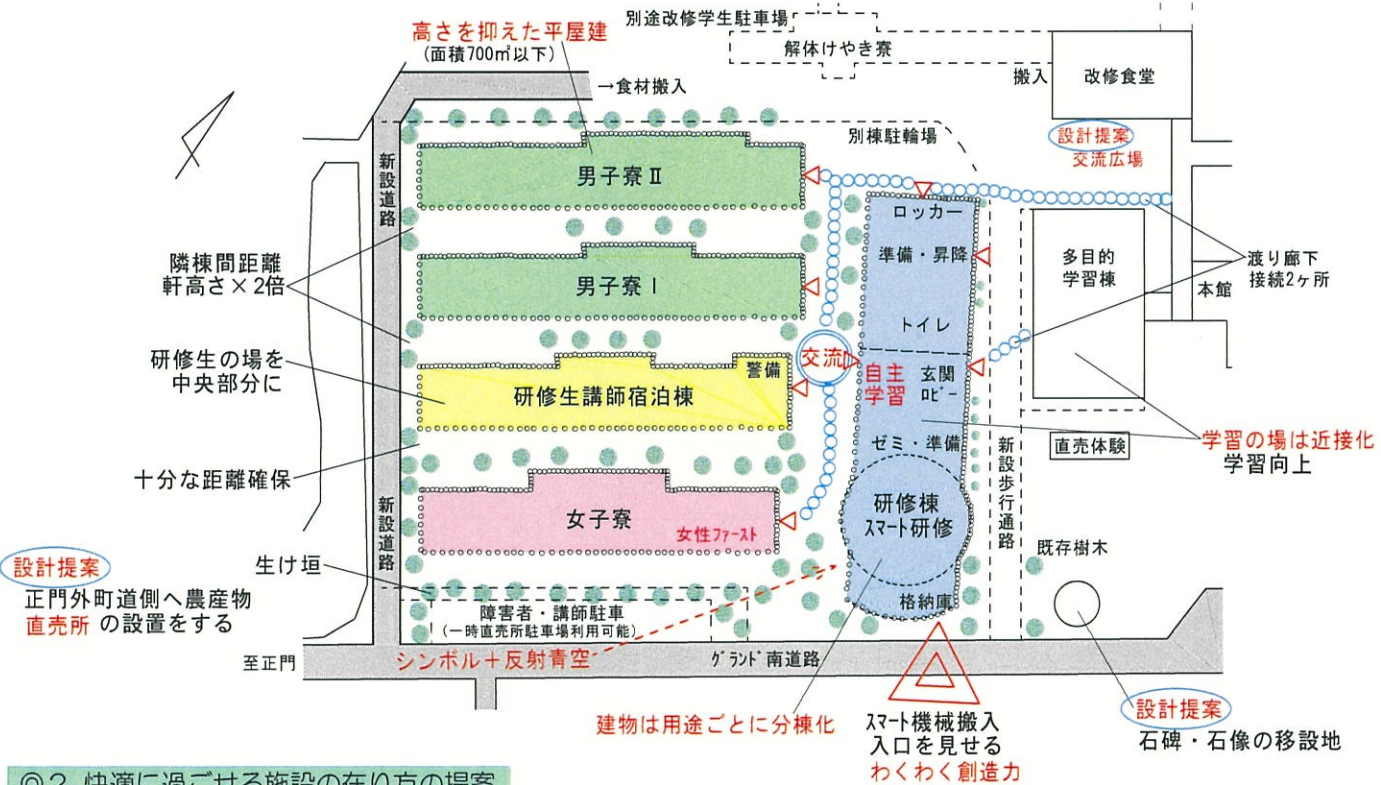


さわやかで開拓の地・やぶきに  
フロンティア農業を開くベースキャンプを創る

◎1. 先端技術を学べる施設の在り方の提案

- だれにでも開かれていて、軽やかな環境をめざす。重厚感のある正門からの桜並木に80年の歴史はあるが、今回の一時整理(桜・銀杏樹木伐採)を支持する
- 建物は一棟化をさげ、自然採光・通風に優れるよう用途ごとに分棟化し、全棟共生活する人にやさしい平屋建てとする
- 研修機能は、既存多目的学習棟との一体的な運用ができるよう近接させ、学習効果の向上を図る。研修棟として、既存棟と平行配置とし、車通行道路は西側に移動する。そして既存多目的学習棟の中央部多目的ホールと、計画玄関・ゼミ室を直結する渡り廊下を設置する
- 研修ゼミ室と研修者宿泊室を今回計画地内の中心位置に配し、自主学習・研究促進の核心とする

- 第一優先機能の最新農業機器搬入をするための大型入り口は、現グラウンド南東角の最も入りやすい位置とする。開閉扉の大型シャッターも可透性のあるものとして、実際講義前に期待を与え、外来者にもスマート機械に興味を持たせる
- スマート研修室は、他部より高さを上げて求心力を持った建物群中のシンボルとする。本館南の樹木を背景とし、青空を写したミラーガラスで覆った近代的な建物とする
- スマート研修室の平面形状は、18mほどの正方形としてどこからでも近く、臨場感をもった講義を提供する。また無柱とするため木造トラス梁として室内に露出させ、その構造技術体験も提供する
- 学生の男女比率の変化に対しては、中間に在る研修生講師宿泊棟部分で調整を可能とする(一時転用する)



◎2. 快適に過ごせる施設の在り方の提案

- 用途ごとに分棟化することで、プライバシーの確保ができ、学びの向上も促す。また、防災設備類の簡素化と、大規模火災による被害軽減策ともなり、安心感を与える
- 男子寮2棟・女子寮と研修生宿泊棟は、建物規模がほぼ同じになるため、4棟は南面採光が得られる東西配置とする。また、研修生と学生・講師の交流場となるように研修生講師宿泊棟を中心に配置する
- 寮棟は安全管理面でも優れた中廊下方式とし、共用水廻りを北面配置とすることで7割程度は南面に寮室を配置できる。中廊下は屋根の棟部分であり、採光・通風に優れた吹抜けやハイサイドライトの設置をし、変化とリズムを与える

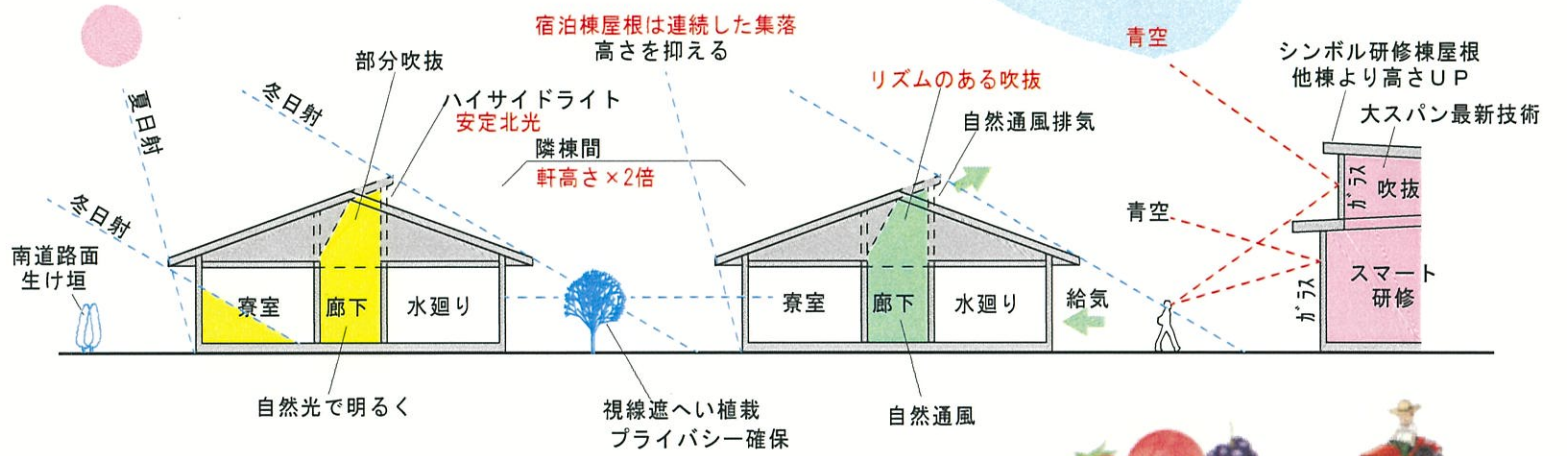
- 女子寮は食堂から遠いものの、プライバシー・採光に優れた最も南側とし、敷地内道路からも距離を確保し、周囲を緑地で囲み良好景観を確保する。農業分野でもますますの活躍が期待されるため、女性ファーストを計る
- 分棟化した建物間の距離は軒高の2倍を確保し、自然採光をそのまま利用する。屋根形状も日影に支障がない形とする
- 寮室周囲は遮音性に優れたCLT材の採用も検討する。また寮室内は住宅同等の高断熱・高气密化を実施する
- 建設建物内で必要最少限な電力を確保するため、景観に配慮した位置に屋根平置き型の太陽光パネルを設置する

◎3. 学びと交流を促す施設の在り方の提案

- 学生学習用として開放されるゼミ室を建物中心部に配置し、そこに研修生宿泊棟を隣接させ交流エリアとし、男女の寮室からの距離も短くした配置とする。監視警備室も建物中央部分の交流エリアに接した配置とする
- 食堂までの距離があるため、寮棟内に簡易調理ができる場を設置する。(集いのできるラウンジへ流し台をおく)食事だけでなく、試食や調理法の研究も可能となる
- 棟を結ぶ渡り廊下も柔らかさを感じる木造で提案する。遮風も十分考慮する。定期的な耐候性塗装補修が必要
- 寮室周囲壁の遮音には細心の注意を計りつつ、将来的の間取り変更対応できるように開口部を想定しておく

◎4. 革新、意匠、県産、持続性能に優れた施設の在り方の提案

- 建物全体はシンプルな形状とし、建設コストを縮減する。構造材の一部を露出させ、温かい仕上材として利用する
- 屋根形態について、研修棟は緩い勾配屋根、寮棟は高さを抑えた落ち着きのある寄棟屋根としたい。4棟連続は集落をイメージさせる。庇を出して日射調整と建物の長寿命化を計る
- 研修棟はシンボリック・気鋭で最先端的な建築を追求し、寮棟部分は、在来木造工法などの経済比較を行い、低コスト化を計る。維持管理を容易にすることを考慮した建物とする
- 寮棟は分棟化を計り、1棟床面積700㎡以下に抑える
- 共用部の照明・換気・水栓等のスイッチは人感センサーを設置、寮棟の冷暖房機器は集中化をさげ小型分散化し、汎用普及品を多く採用し、更新時の負担軽減にも配慮する



◎5. 特に重要と考える提案

- 学生の有志で「軽トラ市クラブ」が発足し、自らが作った農作物を軽トラ市で直接販売するサークル活動をしている。町広報紙でも紹介されており、直販に熱意ある学生はいる。周辺に直売所・大型スーパーもあり、物販店充足している感はあるが、町民からは直売の要望が高い(ヒアリング結果)
- 『農産物直売所』を地域に開かれた西側町道沿いに設置し、学生に多くの直売体験学習をしてもらう提案をする。自分達れないが、内容は多彩・高品質化している。設置場所は現在の校地内でなく開放された別エリアがよい
- 販売額がわかれば、たとえ少額でも、学習意欲は倍増する。販売額を伸ばすための努力体験のきっかけとすることができ、グループ内相談で協力し、一体感が生まれる。建築物が難しければ、駐車と複数の無人販売機でもよい。既存木造直売所移設も可能である(駐車場も検討必要)
- 周辺整備で石碑・石像の残存回答があったが、学生の移動動線との交錯回避のため、道路を西側に移動することを優先する。敷地的にゆとりがないので、石碑の多目的学習棟南側樹木地への移動を提案する



- 昨今大地震が定期的に発生しているため、耐震性に余裕を持った構造設計とする
- 障害者・講師駐車場は、グラウンド南道路から直接進入の形態とし利便性が良く、生垣等で防犯的な工夫をする
- 既存食堂の南側部分を、交流広場として整備すれば学生・研修生の活用が期待できる。食べながら交流することは、自分達で作った生産物の品評会を兼ね、短時間でも深い交流になることが予想できる
- 寮室内の収納・机・ベットを、大工作成木製で設置する。平型でなく多段利用形とすると平面の有効利用ができる。大量生産の画一的な既製品ではなく、一つ一つ違う味わいを持つ製品は学習を後押しする。補修も容易で低コストである
- 研修のために海外から訪れる研修生の受け入れを考慮して、専用ユニットバスを設置した特別宿泊室の設置を提案する